

絵本の印象にみる子育て意識の違い

保護者・保育者・保育学科学生との比較から

出雲美枝子 乾 恵子 池田真紀 楓井由美 川崎尚子 佐藤利一 渡邊 純
(大阪芸術大学附属幼稚園)

【目的】 現在、幼稚園に子育て支援の機能が求められていることは十分に理解されているところであるが、どのような役割を果たすことが、その地域でのニーズとなっているかは議論の余地が多分にあるといえる。その中で、我々は、十数年来、未就園児を対象に「おやこ教室」を実践してきたが、そこでみられる保護者の子育てについての悩みや不安をどのように受け止め、受け皿となるかを模索してきた。

その一つとして、絵本を通じて子育ての感想を探る試みを、昨年、日本保育学会第56回大会において『絵本にみられた子育ての楽しみや悩み』と題して発表した。その内容は、絵本を介することで保護者自身が客観的に様々な子育てに関する心情が表出されやすくなり、また、子育ての示唆を与える意味でもより共感が得やすくなったことを示した。

今回は、在園児に対して同様の手法を用いて、子育ての心情について理解を深め、子育て支援のあり方を検討しようと考えた。そこで、保育者が同じ絵本から受けた印象との異同を知ること、互いの立場の違いや視点の差異を明確にできると考えた。また、対象群として保育者、保護者の予備軍である保育学科学生の感想と比較しながら検討を加えたので報告する。

【対象】

- ④ 本学附属4幼稚園の保護者 683名
- ⑥ 本学附属4幼稚園の保育者 40名
- ⑦ 本学短期大学部の保育学科 106名

【方法】

各群の感想文回収方法について以下に示す。

- ④ 平成15年5月より11月までの間に絵本を貸し出す際に、無記名の感想文記入用紙を配布し、絵本返却時に感想文箱に自由記述感想文を提出してもらった。のべ1,249冊貸し出し感想文回収818件(66%)
 - ⑥ 自宅に持ち帰り絵本返却時に感想文を提出してもらった。のべ280冊貸し出し感想文回収235件(84%)
 - ⑦ 授業の最後に読み聞かせをし、次回に感想文を提出してもらった。のべ691名に読み聞かせ感想文回収371件(54%) (すべて無記名である。)
- 得られた感想を自分自身の立場や状況に関連しているかといった視点から下記の4つに分類し、その内容に

ついて3群間で比較検討した。

- ① 自分自身の心情を振り返ったもの
- ② 子育て。保育についての反省をこめたもの
- ③ 子どもの心情に気づかされたもの
- ④ その他(絵本の内容についてのみ述べたもの)

◎絵本の選択理由

子育てに関する相談内容からケンカ等の日常場面を想定させる絵本や母子間の心情を想起させると思われる絵本を選択した。

【結果】 各絵本の回収率 (%)

	保護者	保育者	学 生
ビリーは12さい	54	78	51
さっちゃんのまほうのて	67	80	62
ずーっとずっとだいすきだよ	76	90	59
もしもぼくがあかちゃんだったら	73	85	55
100万回生きたねこ	58	85	50
けんかしても	88	80	52

以下、各絵本について内容を分類したものを表に示し、特徴的な感想文を各群1例ずつ例示する。

【ビリーは12さい】相馬公平

犬のビリーは12歳。家族もビリーと一緒に歳をとったんだ。老犬とそんな家族のほのぼのとした物語です。

(%)	①	②	③	④
保護者	61	3	3	33
保育者	67	0	10	23
学 生	46	0	0	54

【さっちゃんのまほうのて】たばたせいいち

女の子が動揺し傷つきながらも指がないという自分の現実を受け入れ力強く歩き出す姿を描いたものです。

(%)	①	②	③	④
保護者	59	5	4	32
保育者	50	22	6	22
学 生	34	0	34	32

保護者

さっちゃんが母親に「さちこの手はどうしてみんなと違うの?」と聞いた時、胸がいっぱいになりました。さっちゃんの母親の様に我が子を受け止めることができるか考えさせられました。

保育者

子どもの気持ちをきちんと正面から受け止めて話をし
てあげることの大切さを感じました。そうすることで
互いに何かを学び、成長していくと思いました。
日常の保育をもう一度見直そうと思いました。

【ずーっとずっとだいすきだよ】 ハンズ・ウィルヘルム

愛犬へよせる深い愛をさわやかに描く。

(%)	①	②	③	④
保護者	5 7	2 5	2	1 6
保育者	7 5	6	6	1 3
学 生	2 6	0	5 0	2 4

保護者

“だいすきだよ”と最近言っているのかなと思った。
子供が成長するにつれて、ほめたり、叱ったりするこ
とはしょっちゅうだが“だいすき”とは言っていない
なと反省した。少し照れくさいが、早速使ってみよう
と思う。“だいすきだよ”って・・

保育者

年老いてくるにつれ、なんだかいとおしく感じてくる。
こうしてあげれば良かった、もっとこうしてあげたい
など気持ちも変化してきます。この本を通して生き物
の大切さを改めて感じ、動物と一緒に暮らすことによ
って優しさも育つのだなあと共感しました。

【もしもぼくがあかちゃんだったら】 相馬公平

もしも自分があかちゃんだったらわがままも許される
し、いいことずくめだと想像する男の子のおはなし。

(%)	①	②	③	④
保護者	2 4	4 4	2 5	7
保育者	3 8	1 8	4 1	3
学 生	3 5	0	5 0	1 5

保護者

子どもが小さかった時は何か出来るごとに喜ばしかっ
たのに、今ではそれが“あたりまえ”になってしまい、
誉めてあげる機会がへったなあと実感しました。それ
どころか口を開くと“早くしなさい”と怒ることばか
りの様に思います。

学生

多分みんな赤ちゃんになったら」お母さんが優しくな
ったり、おっぱいが飲めるなど得することがいっぱい
あると思っているんだと思う。赤ちゃんの時の写真を見
たりすると照れくさかったり、やっぱり赤ちゃんじゃ
なくてもいいなと言うのではないかなあと思いました。

【100万回生きたねこ】 佐野陽子

100万回死んで、100万回生まれかわったトラねこ。

この世に生まれた意味を問ひかける絵本です。

(%)	①	②	③	④
保護者	5 7	4	4	3 5
保育者	5 3	6	6	3 5
学 生	5 5	0	0	4 5

【けんかしても】 相馬公平

仲良しのくまちゃんとうさちゃんのお話。お互いに思
いやる優しい2人に心がホンワカあったかくなります。

(%)	①	②	③	④
保護者	4 6	1 2	1 3	2 9
保育者	3 8	6	3 1	2 5
学 生	3 5	0	1 9	4 6

保護者

けんかをした時などつい親が口を出してしまうもので
すが、子供はそれなりに感じて子供の感情で解決して
いけるものなんだろうなあと思います。

親同士のお付き合いでつい口出しをしてしまいます
が、もう少し黙って見守る事も大切ですよ。

保育者

仲良しさんは同じ事を考えているのかなと思いまし
た。同じ事を考えているからこそ、ぶつかって、けん
かをして、同じ事を考えているからこそまた仲良くな
って、それが繰り返されて友だち関係が育っていくの
だなと改めて思いました。

【考察】

「さっちゃんのまほうのて」の感想では、各々の立
場の違いが鮮明に出たようである。つまり、保護者と
して自身が障害をもった子どもを持った場合の自己の
心情を感想として述べていることが多く、保育者は、
それに加えて自身の態度を反省するものもみられた。
学生は、「かわいそう」「こどもはひどいことをいう」
といった内容について感想がみられた。

また、絵本の上では、「けんか」の状況を保護者とし
て冷静に受け止めるべきといった態度を反省する感想
がみられたが、保育者は「けんか」をする子どもの心
情を推測する感想が多くみられた。

このような立場の違いを絵本を通して浮き上がらせ、
保護者と保育者が客観的に話し合うことで相互の理解
を促進する媒介になるとも考えられた。

アンケートに御協力いただいた保護者の皆様に深謝い
たします。